

1. 研究目的

幼少期における「環境」は大変重要とされている。私は児童施設を対象に選んだ。その理由は家庭の事情で児童施設を利用せざるをえない児童が、近年児童を狙った犯罪の増加や地域の協力が薄れた事で増えているからである。本研究は子供が児童施設において快適過ごせる空間の提案である。

2. 調査と分析

調査した児童施設「どんぐり」は総児童数が約100人で一日に40～50人くらいが通っている。そのほとんどが小学校1・2年生(6・7歳)である。

児童施設ではおやつの時間などを除けば基本的に自由な行動が許されている。施設内での児童の状況①少人数のグループを作り遊んでいる。②遊びは様々だが大きく分けるとお絵かき、パズル等の作業系と独楽、ごっこ遊び等の活動系に分類される。この2つの行動は度々トラブルが生じている。例えば、絵を描いてる児童に走ってる児童がぶつかるケース。これは大きな問題だと思われる。もうひとつ大きな発見をした。③子供達はマットや椅子を使って自分達の快適空間を作っていることだ。最近の子供は私の頃と全然違うのではないかと思っていたが、芸能面をよく知ってるぐらいでさほど昔と変わらないと思った。

3. コンセプトの立案

「唯の壁でない」「作業系」と「活動系」の間に境界を設けても、重く感じないしきり。デザイン条件①「子供が使う」子供でも安全に使用でき、子供が使いたがるようなもの。②「収納しやすい」児童館では閉館する際椅子やテーブルも一部屋に片付けていたことから。

4. デザイン展開

アイデア①蛇腹の四角い筒で構成。蛇腹の動きの面白さと紙の折り方に興味を持った。素材は身近なダンボールを選んだ。問題がいくつも発生した。そもそもこの形状が頻繁に使用するには向いていなかった。そこで、これまでやった事はあとに生かすとして、素材から考え直すことにした。(図1)アイデア②3枚の円盤で構成。3つのパー

ツを連結させて1つのパーティションにしている。使用時は3枚を広げて使う。真ん中のサークルは折れ曲がるので、複数あれば多彩な境界を作ることができる。不要時は1つにまとめしえ、子供でも転がして面白く簡単にしまうことができる。素材の外側は硬めのスポンジ、それに挟まれてるのが断熱材(ザ・スリム)である。こうすることで外側はやわらかく怪我をする可能性が低く、中がしっかりしているのでスポンジがぺらぺらすることがない。どちらの素材も軽いので、落としたり・倒れた場合でも怪我はしない。(図2)



図1



図2

5. 完成図



6. 結論

児童施設「どんぐり」で検証をおこなった。握り穴の改善等細かい直しもあるが、最大の問題は使用方法をどう理解させるかであった。説明しなくてもパーティションとして使用できる子もいれば、説明してもなかなか理解できず分解しようとする子もいる(理解できないものは壊す傾向の子供がいる)。改善点として、説明書がなくてもパーティションとしての使い方がわかるようにしなくてはいけないと思った。

7. 参考文献

文部科学省 学校保健統計調査
(http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index03.htm)